平成20年12月25日
［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0370900573
法人名	社会福祉法人　柏寿会
事業所名	福光園グループホーム　フクちゃんハウス
所在地	岩手県一関市真柴字岩ノ沢91－19 （電　話）0191－31－2500

評価機関名	財団法人　岩手県長寿社会新興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19－1		
訪問調査日	平成20年10月20日	評価確定日	平成20年12月25日

【情報提供票より】(20年 9月 1日事業所記入)

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成　16 年　3 月　1 日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	11　人	常勤　11　人，非常勤　　人，常勤換算　10.6 人

（2）建物概要

建物構造	木造平屋　造り
	1 階建ての　1 階～　階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	21,000　円		その他の経費（月額）	15,000　円
敷　金	有（　　）円		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000　円			

（4）利用者の概要（ 9月　1日現在）

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2	名	要介護2	1	名
要介護3	1	名	要介護4	2	名
要介護5	3	名	要支援2		名
年齢　平均	85.3 歳	最低	78 歳	最高	99 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	一関病院（総合）　秋保クリニック（精神科）　山本歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

フクちゃんハウスは、一関市街から国道4号を南へ約5kmほど離れた宮城県との県境の、木々に囲まれた小高い丘にある。社会福祉法人柏寿会が設立したグループホームで、同地内には特別養護老人ホーム、デイサービスなど10件ある事業所のうちの1つである。2つの委員会を作り、職員の自主研修に力を入れている。利用者の介護度が高いこともあり、夜間は2人体制で見守りをしており、夜間（19:00以降）の入浴には、毎日対応している。職員が常に前向きな姿勢で日々の介護にあたっている様子が窺われ、利用者及び家族との関係も良好であり、今後の更なる活躍が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 前回の外部評価の際、6項目に改善指摘があったがいずれも改善の方向にあり、更なるスキルアップを目指している。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 年に2回、職員全員で自己評価を行い（内1回は調査1ヶ月以内）、ホームの自己評価として提出している。それぞれのグループで検討し共有することで、意識の向上につなげている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6） 利用者と家族全員が委員として参加している。改善の項目については職員全員で検討し、改善に向けて日々努力する姿勢が定着してきている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） 開所以来一件の苦情もない。利用者は無論のこと、家族との良好な関係作りに全職員が心掛けており、雰囲気はとても良い。家族と医療機関との間に入り、本人の意思を尊重した対応に心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 利用者の介護度が高くなり、介護度が高くなっている方のホームから出かける回数が減りつつあるが、全体では昨年より回数が増えている。地域の運動会、幼稚園の行事等に招待を頂き、体調と相談しながら参加をしている。法人施設との交流が行われているが、ホームに訪問していただく交流の仕方も方法の一つと考えられる。

2.　評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体で「和」と呼ばれる3つの基本的方針を柱として捉えており、これをホームの理念としているが、ホームの事業を開始してから、地域密着型サービスの実施に必要な家族と地域とのつながりを意識させる4つ目の項目を、職員全員で検討し作られた。この理念は、玄関の正面に掲示してある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全員での唱和はしていないが、仕事につくまえに職員個々が意識高揚のため、理念を唱和して、項目ごとに意図するものは何かを考え全員で共有し日々の介護の指針としている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	介護度が高くなってきているが、昨年に比べて外に出かける機会は多くなっている。ボランティアとの昼食会や区長の招待で、地区の運動会や、幼稚園、保育園訪問の行事等へ可能な範囲で参加している。小学校への雑巾贈呈や中学生の体験学習の受け入れも行っているが、自治会への加入はされていない。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の指摘項目である。職員全員で検討し改善が図られている。年2回全員で自己評価を行い、職員を2チームに分けて検討を繰り返し、今回の提出となっている。ホーム独自に実務者効果測定アセスメント（36項目）　職場の活性度調査（15項目）を積極的に行っており、評価を活かした取り組みの実践に向け、具体的改善を行なっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施されており、利用者と家族、職員全員が委員になり、会議に参加している。日中の開催であり全員の参加は望めないが、利用者(2～3人）家族からは5人が毎回参加をしている。会議では行政側からの報告や説明、ホーム側からは近況、実績報告をしている。なお、出席者が固定化してきているため、人選を工夫して幅広い対応が必要となっている。	○	グループホームとして素晴らしい実績と経験を活かし、認知症への理解を深めてもらう活動を行うなど、地域への還元を希望したい。また、運営推進会議の委員に近隣の方々や有識者、民生委員、区長、老人会、交番、消防署等、広域な方々の参加を依頼して意見や協力をいただき、報告が中心の会議から、サービスの向上につながる話し合いの場となることに期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム独自に立ち上げている保健委員会に、市の職員を講師として参加していただいており、利用者家族も参加のうえ、プライバシーの問題等を含めた発表の場を持っている。9月には市から派遣された広域行政組合の介護相談員2名による話合いが行われており、家族も参加して相互情報共有、交流が行なわれ、サービスの質の向上に向けた取り組みが行なわれている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問は多く、毎週訪問されている方もいる。毎月発行の広報「フクちゃんたより」には、利用者の日々の生活の様子が写真入りで掲載され、家族にのみ郵送で報告をしており、職員一人ひとりのコメントを付けている。月々の使用料は口座振り替えとなっているが、小遣い等はホームで金庫管理しており、随時帳簿確認が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口、意見箱を用意しているが、不満や苦情は現在まで1件もない。 毎週のようにホームを訪れる家族もあり、推進会議の出席率から見ても家族とのコミュニケーションはよく取れている様子が窺える。また、家族が参加できる行事を増やして、交流を深める努力を続けている他、家族アンケートを実施し意見等を運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来8人の職員が法人内で異動または退職している。異動等はなるべく避けるよう、法人に働きかけを行っている。退職するときは、2週間くらい前から、本人の口から伝えるようにしており、不安を与えないよう管理者からも声をかけており、ダメージを防ぐ配慮をしている。利用者の理解も得られやすく、今までトラブルは起きていない。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内で研修委員会を立ち上げており、ケアや接遇に関する研修を柱に法人全体で年1回、同一法人のホーム同士で1回、県グループホーム協会には施設長が、ブロック研修には職員が参加している。外部研修に参加した職員が講師になって内部研修を行い、情報の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会定例会を始め、2ヶ月に1回の両磐地区ブロック会議、法人内のグループホーム同士の研修、行事を通じデイサービス事業所等との交流等を行なっている。なお、交換研修は、今年度は行っていない。	○	当事業所は夜間二人宿直制を兼務で実施しており、仮眠はとれるが、一人当たり1ヵ月8回の宿直がある、研修等の参加に当っては、参加しやすいように、勤務調整を行なっているが、以前行なわれていた地域の同業者との交流は途絶えており、なるべく早い時期に、他事業所の職員との交換研修等の活動を通じ、日頃気づかない事や良いところを習得し、サービスの質の向上に繋がるよう取り組みに期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在の待機者は15名いるが、利用前に管理者が直接、家庭を訪問して聞き取りを行い、フェイスシートを作成して入居前に家族とともにホームを見学してもらっている。利用者と家族は、ホームの雰囲気や、他の利用者との関わり方を確認し、納得いただいた上で、家族が申し込む形を採っている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員の会話が活発である。日中、大半の利用者は共有の居間で過ごし、こたつで昼寝をする方もある。テレビはあまり観ずに、会話を楽しんでいる。家族から提供していただいた布で雑巾を縫い、近くの小学校に3年続けて寄贈し喜ばれていることが、利用者の励みになっており、利用者にできることを有効に発揮できるよう、支援が行われている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	前回の指摘項目を改善しケアプランの中に本人の想いや希望、家族の希望や意見を聞き取り、職員会議で意見交換を行い検討のうえ、援助目標と具体的内容を決めて作成している。利用開始後も家族の来所時には必ず会話を持ち、聞き出しに努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族を交えたカンファレンスを年2回行っている。1ヶ月前に家族から意向を伺っており、検討会議を経て計画が立てられている。ケアプランの見直しには8割の家族の参加が得られ、状況の説明と、他に残された課題についてもプランに反映させている。参加の出来ない家族には、電話で対応している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年毎に計画の見直しを行ない、急な変化の場合には即時対応を心がけているが、変化が生じた場合には一ヶ月ほど経過を観察して職員会議で家族の希望も採り入れ、検討し見直している。変化のない人でも家族に連絡するようにしている。新しい利用者は、一ヶ月間観察をして3ヶ月ごとに、ケアプランの見直しをしている。利用者の様子や変化についてパソコンに入力しており、職員全員が情報の共有を出来るシステムが構築されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の要望に応じた支援体制が整えられており、ふるさと訪問、床屋への付き添い、通院介助も、例外を除いてホームで対応している。外食の希望にも対応しており、本人や家族から喜ばれている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医の利用者が4人いる。家族の希望で変更になった方は5人おり、定期通院は職員が対応している。変化がないときは家族が来所したときに報告するが、緊急性のある時や、医師からの連絡があるときは、電話にて家族に伝えている。2週に1回の通院者についても、ホームで対応している。なお、入浴可能な病院、緊急時に対応可能な病院と医療連携を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在介護度5の方が3名おり、1名の方は全介助である。利用開始した時からターミナルを考え、家族とも話し合いを重ねて、ケアにあたっており、他の家族もホームにてターミナルを希望されている。医療連携体制はとられていないが、住み慣れた環境での介護を強く望んでいる家族の思いを大切に、家族、医師、ホームとの話し合いは密になされており、職員の意識も高いと感じ取れた。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者の方針でプライバシーや個人情報については十分に配慮がされてあり、禁句マニュアルの作成や、居室の名札は外から見えない工夫がされている。日々のケース記録、申送りノートの記入やその都度パソコンに入力し、転記した紙類は（薬袋も）保管する書類のみ残し、シュレッダーで処理をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護度が高くなり、全員による行事参加、日常生活での取り組みが困難になってきているため、必然的に1人一人のペースを大切にする介護を心がけるようになっている。利用者と職員の関係は非常に良好であり、会話を聞いていると、一般の家庭に居るような雰囲気である。言葉がなくても表情から本人の想いが読み取れる関係作りができている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員からのうながしが無くても、手伝いができ、食べたい物の希望もある。訪問時の昼食の予定は「小松菜のお浸し」であったが、入居者の希望で「ほうれんそうのお浸し」に変更になり、ホームの畑で作った物を利用していた。旬の物を多く取り入れ、誕生会、行事食の献立も取り入れて喜ばれている。家族からの差し入れもあり、献立変更もよくある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	１日おきに入浴する方が5人（16:00～18:00の間）　19:00以降の希望者が4人おり、うち2人は毎日入浴されている。職員は2人体制だが、重度の方でもホームの浴槽で対応している。入浴後は必ず新しい下着に着替え、介護度の高い方でも夜は、必ず下着の交換とパジャマに着替えており、きめ細かい支援を行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの状態に応じており、乾いた洗濯物をたたむのを自分の仕事としている方には名前入りのかごを用意し、職員が判別してたたんでもらっている。また、雑巾縫い、食事作りの手伝い、暖かい時期は草取り、収穫など、それぞれの出来る範囲で潜在能力を引き出す支援が行われている。最終的には必ず職員が確認をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前は、毎日のように買い物に出かけていたが、介護度の進行とともに行動範囲が狭まり、現在では法人の敷地内を30分ほど職員と一対一で、散歩する程度に止まっている。お盆、正月には、ほとんどの方が帰宅をしている。1ヶ月2回（2泊3日）で帰宅する方もいる。天気が良いとドライブに行ったり、買い物をしたり、敷地内を30分位散歩や草取りをする方もあり柔軟な支援がされている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は20:00～6:00は防犯上施錠しているが、日中は非常口を除き開放している。施錠が必要なときは、「施錠チェック表」に時間帯と理由を記入する仕組みがあり、安全に配慮されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	新潟の大地震、先般の岩手・宮城内陸地震の教訓から、法人共有の防災マニュアルが作成されている。また、避難訓練が行われており、1食分ではあるが、食料と水、衛生用品、帽子を用意されている。各居室のクローゼットの下段には、下足箱があり、緊急時に履物がすぐ用意できる作りになっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に3回程度、母体法人の管理栄養士の指導、助言を受けており、一人ひとりの身体状況に応じた支援がなされている。平均1日1400kcal、水分は1000～1500cc（味噌汁、牛乳除き）を目処としており、体調の悪い時は高カロリー補助食品で代替えをする。朝食は目で楽しむランチ皿を使用して好評である。起床時は必ず130ccの牛乳を飲んで便秘予防の効果を上げている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造が明るく使いやすい。L字型の構造で、正面玄関を入ると中心近くに、食堂、居間兼用の共用空間があり、中扉を開け、開放的で使いやすく、外の景色が見えるように設計されている、廊下の天井は吹き抜けで左右に天窓があり、車椅子が使用できるトイレ、開放的であり、建物全体がバリアフリーで要所要所に気配りがされている。また、安全かつしっかりした造りになっていて、なごやかで暖かいホームである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はシンプルで、入り口に暖簾、名札、介護用ベット、エアコン、空気清浄機、下駄箱付き物入れ、手洗い、避難用帽子、寒暖計等は備付けになっている。写真、置物、ポータブルトイレ等の持込がある。食事に使う茶碗、箸、お椀は各自好みの物を使用している。		